

# 岡山のとしょかん

岡山県図書館協会報  
(第125号)

## 新見市立中央図書館のご紹介

### ■新図書館の概要

新見市立新見図書館は、2017年4月1日に「新見市立中央図書館」と名称変更してリニューアルオープンしました。

新図書館は3階建ての延べ床面積3337.73㎡で、蔵書冊数は約10万冊、最大12万冊の収容が可能です。建物は、壁一面がガラス窓になっており、閲覧室に低書架を採用したことで自然光が差し込み、明るく開放的な雰囲気になりました。併設のカフェではコーヒーやスイーツ、ランチを提供し、飲み物は館内に持ち込んで読書と共に楽しんでいただけます。

### ■館内の特色

1階のエントランスホールは、吹き抜けの空間に天井まで続く大書架があり、中央図書館の

愛称「まなびの森新見図書館」のイメージ通り「本の森」を感じさせる



[1階エントランス]

空間です。2階には、各分野の一般書や、小説・旅行ガイドブックなど利用度の高い図書に加え、家庭菜園から畜産を含むビジネスまで、「農」に関する資料を集めた農業支援コーナーを設けました。農業や加工品販売に役立つ資料を収集するとともに、データベース「ルーラル電子図書館」を導入して、農業に携わる方を支援しています。3階の絵本コーナーは、階段状にデザイ

ンされたステップフロアが特徴の、木のぬくもりを感じる落ち着いた空間です。パズルのように形を変えて使えるテーブルやイス、色ペンで自由にお絵かきを楽しめる「お絵かきボード」を設置するなど、まるで遊び場のような好奇心を刺激する造りになっています。

### ■読書通帳機の導入

新たな取り組みとして、「読書通帳」の無料配布を始めました。通帳機に通すと、借りた本のタイトル・著者名・貸出日が印字されるので、読んだ本の記録を管理しやすくなったとご好評を頂いています。通帳のデザインには新見市の観光キャラクター「にーみん」を活用し、配布総数は、計1,041冊になりました(12月末現在)。子どもにとっては記帳するというプロセスが面白いようで、兄弟で我先にと通帳機に向かう微笑ましい姿を目にします。読み終えた本が目に見える形で「貯まる」、楽しい読書推進ツールとして期待するとともに、貯まった通帳を子ども時代の思い出として宝物にしてもらえたらと願っています。

### ■まなびと憩いの図書館を目指して

「まなびの森新見図書館」の愛称は、一般公募によって市民の方に名付けていただきました。多くの蔵書に囲まれた本の森をイメージし、学び憩える場所になってほしいとの思いが込められています。期待に応えるべく、今年度はヨガ教室・歴史講座・絵本作家のトークライブなど、学んで楽しめるイベントを実施しました。館内の特集展示や空間づくりにも日々工夫を凝らしつつ、次年度も職員一同笑顔で図書館サービスを提供していきます。

(新見市立中央図書館 田中景子)

**全国大会で、学びとつながりが深まりました！**

**■全国大会を岡山で開催！**

学校図書館問題研究会（通称「学図研」）は、全国の学校図書館に関わる職員や学校図書館に関心のある人たちのための研究団体です。全国に19の支部があり、岡山支部には県内の小・中・高等学校司書や公共図書館司書、研究者など70人以上が所属し、月1回の例会と支部報「しぶしぶ」の発行を中心に活動しています。

毎年各地で全国大会を開いていますが、2017年は岡山で開催しました。台風の直撃という予想外のこともありましたが、参加者は北海道から沖縄まで34の都道府県から、475名が集いました。

**学図研第33回全国大会（岡山大会）**

日程 2017年8月6日（日）～8日（火）

会場 岡山国際ホテル（岡山市中区）

大会テーマ

考えよう！ これからの「学び」と学校図書館

- 6日：講演「子どもの問いに響きあう『深い疑問』を生み出す教育をつくる」（都留文科大学教授・教育科学研究会副委員長 佐藤隆氏）、9つのナイトー（夜の分科会）
- 7日：2本の実践報告、8つの分科会
- 8日：総会、オプションツアー図書館見学（岡山市立岡山中央小学校・岡山県立図書館）

**■大会準備を学びの機会に**

大会前の1年間は、例会と並行して月1回の大会実行委員会ももつことになりました。会場との交渉、全国で分科会などを準備している各支部との連絡調整、大会開催を知らせるための情報発信……と雪崩のように押し寄せてくる「しなくてはいけないこと」に会員みんなで追われながらも、支部としては「大変だったけど楽しかったし、いろいろ勉強になった」と後で振り返ることができる1年にしたいと考えまし

た。そこで、たくさんのプログラム（講演・実践報告1本・分科会2つ・ナイトー2つ）を岡山で担当し、それぞれのテーマに関連して事前学習を行いながら準備を進め、大会準備がそのまま学びの機会になることを目指しました。

**■たくさんの人とつながって**

この大会は、学図研の会員ではない方たちも含めて多くの人々の力で作り上げることができました。児童文学作家でノートルダム清心女子大学教授の村中李衣さん、岡山の語りの第一人者である立石憲利さん、そして元学校司書で岡山市在住のイラストレーター兼児童文学作家のたかおかゆみこさんには、分科会・ナイトーの講師としてご参加いただきました。実践報告と授業についての分科会では、学校司書と教諭が一緒に実践を報告することができました。オプションツアーでは、県立図書館にもご協力いただきました。そして、受付や岡山駅での案内、資料販売コーナーのスタッフなどとして、たくさんの会員外の学校司書たちが、酷暑の中大活躍してくれました。

たくさんの人とのつながりが生まれ、そのみなさんのお力がなければ、成り立たなかった大会でした。この場をお借りして心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

**■これからも、この学びとつながりをいかして**

大会が終わり、大会記録集『がくと vol.33』も昨年末に無事発行し終えて、やっと「通常営業」の学図研岡山支部です。大会でつながった人とのつながりを大切に、自分たちの仕事をわくわくしながら楽しく研究していくことのできる活動を続けていきたいと思っています。

（岡山市立宇野小学校 其輪純子）

例会は原則毎月第3土曜日です。  
会員外の方のご参加大歓迎！  
詳しくは、お近くの会員まで。



大会キャラクター ハーレくん

## 高校ビブリオバトル 岡山県大会 2017

「本を通して人を知る 人を通して本を知る」をコンセプトとする書評合戦「ビブリオバトル」は、読書推進やプレゼンテーション能力の育成に有効な活動として広まっています。

岡山県内の高校での取り組みの普及・活性化のため、2018年1月に東京で開催される「全国高等学校ビブリオバトル2017決勝大会」の出場権をかけた予選会（今年度は35都府県+9ブロックで実施）として、昨年度に続き、岡山県立図書館（共催）を会場に開催しました。

今年度は1校2名までエントリー可とし、8校（県立7校・私立1校）10名の発表がありました。当日は一般の観戦者を含め41名が参加しました。2グループで予選を行い、決勝戦は4名で実施しました。集計の待ち時間に発表者・観戦者に向けた県立図書館からのサービス紹介の時間も設けました。決勝戦での投票の結果、『人生を狂わす名著 50』（三宅香帆／著、ライツ社）がチャンプ本に選ばれました。

発表した生徒たちはいくぶん緊張している様子がかがえたものの、各自の思いを込めたプレゼンを行うことができていました。終了後の交流会は、本好きの生徒同士のおしゃべりで和気藹々とした雰囲気となり、有意義な読書活動推進の場となりました。

現在は有志の教員・司書による実行委員会が運営の中心を担っていますが、より多くの関係者の協力を得ながら、事業の位置づけを検討することが課題です。学校図書館と教科が連携してビブリオバトルに取り組んでいる実践も広がりつつあります。本会を継続して実施することで、高校生たちが読書の楽しさに触れ、仲間に伝える体験を重ねてもらいたいです。

（ 岡山南高校 教諭 畝岡 睦実  
倉敷工業高校 司書 久戸瀬瑞季 ）

## ビブリオバトル 岡山大学予選会

岡山大学附属図書館では、平成29年10月11日（水）に、第16回知好楽セミナーとして、「全国大学ビブリオバトル2017～首都決戦～予選会 in 岡山大学附属図書館」を、岡山大学生生活協同組合との共催で実施しました。

当館では、「知」を「好」み、さらに「楽」しむ境地へと導くことを目的とする様々なイベントを、知好楽セミナーとして実施しております。

今回のビブリオバトルは、12月に東京で開催される「首都決戦」の地区予選会を兼ねた、熱い戦いの場でした。

当日は、4名の学生がチャンプを目指し、それぞれのお薦め本について、5分間という



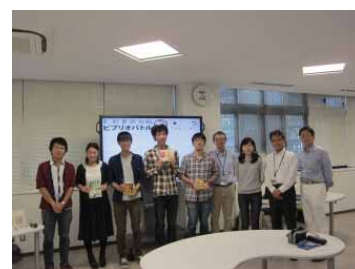
〔ビブリオバトルの様子〕

限られた時間で思いを込めたトークを繰り広げました。30名近くの観客も熱心に聞き入り、ディスカッションタイムでは多くの質問が出されました。

投票の結果、チャンプ本は、『三省堂国語辞典のひみつ』に決定しました。

優勝者は11月に就実大学で開催された「中国Cブロック地区

決戦」に出場しましたが、残念ながら「首都決戦」への出場権を得ることはで



きませんでした。ただ、出場した学生からは、ビブリオバトルを通じて他大学の学生との交流が生まれて良かったというコメントをいただきました。知好楽セミナーを通じて、学生の方のさまざまな交流の機会につながることであれば何よりであります。

（岡山大学附属図書館 遠矢厚志）

「里庄のせいめいさん」を知っていますか？

■忘れられた知の巨人

「里庄のせいめいさん」とは、里庄町出身の博物学者佐藤清明（さとうきよあき 1905年～1998年）のことです。名前の読みから「せいめいさん」と呼ばれました。活動は博物学全般に及び、天然記念物の調査を生涯にわたって続けました。20代の頃は民俗学に興味を持ち、日本で初めての妖怪事典『現行全国妖怪辞典』（昭和10年（1935年）中国民俗学会発行）を出版しました。牧野富太郎、柳田国男、南方熊楠、門前弘多などと交流があり、書簡が残されています。これらの業績に比べ現在の知名度は大きいとは言えません。

■佐藤清明との出会い

始まりは、夏休み講座に依頼した講師の木下浩氏の著作の中の記述でした。木下氏は佐藤に着目していた数少ない研究者の一人で、里庄町の佐藤の遺族宅を調査するなど地道に研究を続けていました。数年前に遺族宅から柳田ら著名人からの書簡が発見され、新聞報道があったにも関わらず、ほとんど話題にならなかったそうです。

佐藤関係の資料集めに東奔西走する日々が続く、行く先々で大量の資料が集まりました。そして、集めれば集めるほど、佐藤の業績のまとめも著作目録も何もないことが判明しました。

■「里庄のせいめいさん」展開催

資料の整理も著作目録も不完全なまま、とりあえず平成29年7月から図書館で「里庄のせいめいさん展」が始まりました。目玉は、遺族から借り受けた『現行全国妖怪辞典』オリジナル本と柳田国男書簡の写真です。見切り発車で始まった展示会ですが、思いの外、大きな反響を呼びました。佐藤と生前交流のあった方、興味を持たれていた方が次々に来館されたのです。そして、8月に展示会が終わる頃には、「佐藤の



「昭和二十五年頃の佐藤清明」

業績を研究して保存しなくては」という機運が盛り上がっていました。展示会が始まる頃には思ってもいなかったことでした。

■清明研究会の発足

9月には、町に佐藤清明資料保存計画を提出し、承認を受けました。そして、11月に佐藤資料を研究する団体「清明研究会」が発足しました。主なメンバーは、「里庄歴史勉強会」会員と、佐藤資料を研究されていた専門家の方達、生前佐藤と交流があった方達でした。

■清明保存会の発足とその後の計画

いよいよ、平成30年は清明資料保存計画本格始動の年です。5月には、「清明研究会」の母体となる「清明保存会」発足会開催予定です。図書館でも清明資料の活用のための定期的な行事

「清明を読む会」を企画しています。多くの資料が残された遺族宅の倉庫の資料の整理・目録作り、佐藤のPRパンフ製作、主な資料のデジタルアーカイブなど、すべきことは目白押しです。図書館を核とした地域住民による新たな文化財の発掘のモデルとなるよう微力を尽くすつもりです。



「里庄のせいめいさん展」の様子」

（里庄町立図書館 小野礼子）

## 金光図書館 — 図書館のお宝紹介 (第2回) —



[百万塔]

金光図書館にはたくさんのお宝があります。

本館の博物館資料には、世界最古の印刷物である「百万塔陀羅尼」をはじめ、

絵画などさまざまな収蔵品があります。

その中の、古地図を紹介しましょう。本館は、『官板実測日本地図』『大和国細見図』『伊勢国大絵図 全』『改正和泉国大絵図』『駿河台小川町絵図 全』『伊勢国細見図 全』『小石川絵図 全』『浅草御蔵前辺図 全』『大久保絵図 全』『博覧会場案内東京最新図』『万宝大江戸絵図』『新刊日本輿地路程全図』『大日本国郡輿地全図』『江戸封建時代日本地図 全』『河内国細見図』など多数所蔵しています。

このたびは本館所蔵の、『正保備中国絵図 (彩色)』と『改正日本輿地路程全図』を紹介します。

正保年間(1644年～1647年)の備中国絵図は、旧岡山藩池田家文庫(岡山大学附属図書館)をはじめ、岡山県立博物館その他にも所蔵されています。

『正保備中国絵図 (彩色)』は、『浅口郡誌』岡山県浅口郡役所 大正14年(1925年)刊の巻頭図版となったものの原図であり、昭和45年(1970年)に所蔵者から本館に寄贈されたものです。

本図はあるところに寄託中に戦後直後の混乱のなかで、本館職員によって4葉が回収されたということです。

幸いにも浅口郡(2葉)は無事で、他に備北が2葉残っています。今回紹介する写真は、金光周辺の部分です。上に北の津があり、北端中央に、佐方ノ内大谷と見えるのが現在の浅口市金光町大谷です。その北方の現在山陽本線が通っている辺りは海が湾入しています。東の部分

では、現在の倉敷市玉島はまだ形成されていません。乙島、七島は完全に島であることがわかります。



[正保備中国絵図 (彩色・部分)]

『改正日本輿地路程全図』は、安永4年(1775年)に完成し、安永8年(1779年)に発行され、江戸時代の終わりごろもっとも広く使われていた「日本地図」の1つです。

1寸(約3cm)を10里(約40km)として作られていて、方角や距離も正しくあらわされています。

ただし、蝦夷(北海道)は描かれていませんが、現在、韓国との領土問題になっている竹島が描かれています。

作者は、長久保赤水(1717年～1801年)という水戸藩の儒学者です。

この地図刊行の42年後に伊能忠敬の実測地図が完成しましたが、幕府の機密として明治時代になるまで社会に出回ることなく、庶民の間では広くこの地図が使われました。

(金光図書館 金光研治)



[改正日本輿地路程全図]

**平成 29 年度岡山県図書館協会  
研修参加助成事業報告**

研修名：平成29年度全国公共図書館研究集会

(サービス、総合・経営部門)

期日：11月30日(木)～12月1日(金)

会場：東京エレクトロンホール宮城(宮城県民会館)

**■地域と共にある図書館**

図書館を地域の中に、そして図書館の多様化する社会的役割というのがテーマでした。

基調講演・跡見学園女子大学文学部植松貞夫教授、事例発表での伊丹市・綾野昌幸、新庄市・高橋一枝、鹿角市・小林光代の各市立図書館長に共通するのは、活力ある図書館を生み出すには「市民を交え」「市民を借り」「市民の場へ」、即ち市民主体が答えでした。

資料を収集し利用者を座して待つ、それを乗り越える姿が浮かんで来ています。

いま一つは、図書館以外の博物館、文化センター、教育・医療など関連機関とのコラボを結んだイベントに参加する図書館の有り様も社会的変化として大きく映りました。

伊丹市立図書館「ことば蔵」は、市民が「やりたいこと」を持ち寄り図書館員と協議し、市民参加型の図書館利用形態です。諸費用は、市民側(喫茶オーナー、邦楽グループ等)であり図書館側は広報紙作成費のみに抑えられるという超安経費で運用ということです。閉館後、夜の図書館を……、一部には飲食可、鳴り物可という現象が現れて来ています。

新庄市立図書館では、kitokitoMARCHE(本活プロジェクト)が図書を抱え街に、そこに子どもから大人まで参加のイベントが組まれます。

鹿角市立図書館では、ゆるキャラの「はなわんこ」「トワダック」が登場し0歳から100歳までというキャッチフレーズでシニア、ジュニア、幼児まで年齢に応じて参加できる取り組みが魅力でした。

以上、図書館と市民は共同参画というのが大きな潮流に映りました。

(「ひまわり」図書 井上弘行)

研修名：平成29年度全国公共図書館研究集会

(児童・青少年部門)

期日：1月18日(木)～1月19日(金)

会場：大阪市立中央図書館

**■研究主題**

**『一人ひとりの子どもの読書活動を支援するために-子どもを取り巻く環境・地域と図書館-』**

**■基調講演：子どもの最善の利益を考える**

**～子どもの生活実態を知っていますか～**

**大阪府立大学 教授 山野則子**

子どもの生活実態調査から、物的資源や生活に必要な資源(現金・衣食住など)の欠如だけでなく、ソーシャルキャピタル(つながり・人間関係)・ヒューマンキャピタル(子どもにとっては、体力・学力など)の欠如により「子どもの貧困」が発生していることを分析し、説明されました。これからの時代は、学校で教員だけが子どもの成長に関わるのではなく、様々な立場の人々が関わるのが重要とし、学校のプラットフォーム化を提案されました。また、子どもの環境や子育て事情について、海外の事例を紹介され、大変参考になりました。子どもの読書に関しても、継続的に支援する大人がいることで、子どもたちの将来を支える基礎学力にも良い影響があると考えられ、その存在は大きいと話されました。

**■研修成果**

この研究集会では、現代の子どもとその保護者が抱える環境や社会問題について、理解を深めることができました。子どもの背景を認識し、児童サービスを展開していくことの重要性を強く感じました。今後も子どもたちの読書活動を支える立場として何ができるか学び続けたいと思っています。(瀬戸内市民図書館 横山ひろみ)

研修名：平成29年度中国・四国地区図書館地区別研修  
 期日：12月12日（火）～12月14日（木）  
 会場：セントコア山口 2階 サファイア

## ■平成 29 年 中国・四国地区図書館地区別研修に参加して

この研修は全4日間開催され、うち3日間の日程に参加しました。図書館に関する最新の情報や課題など、さまざまなテーマの講義や演習がありました。

その中でも今回は、鎌倉幸子氏の「図書館の広報について」の演習内容についてご報告したいと思います。

この演習では、図書館広報の方法やコツを学ぶことができました。まず、情報を発信する上で大切なことは、誰に伝えたいかを明確にすることだと述べられました。現在はこの図書館でも、利用案内・図書館だより・ウェブサイト・Twitter・Facebook など、なにかしら自館の情報を伝えるツールを利用していると思います。各ツールは、主に利用している年代があります。例えばTwitterを利用する主な年齢層は10代から20代まで、Facebookは30代です。どのツールで情報を発信したらどの年代に届くのかを考え、その年代に適した話題や言葉遣いを使用することで、的確な広報を行うことができます。そのため、現在情報を発信している全ツールの利用年代を確認し、情報を伝えたい年齢層に漏れがある場合は、新たにツールを足していくことが必要になります。



また、イベントの告知を行う図書館は多いですが、イベント後にその報告まで行っている図書館は少ないと述べられました。イベント前の準備の様子・告知・報告という一連のプロセスを見せることが効果的だそうです。特に報告は大事で、イベントの様子が写真付きで掲載されると安心し、今回参加しなかった人も次回は参

加してみようと思っていただけやすいそうです。

この研修では、すぐに広報業務に取り入れることができる方法を学ぶことができました。学んだ成果を他職員と共有し、効果的な広報に励みたいと思います。(総社市図書館 渡辺淳美)

## 県図協セミナー（第2回）に参加して

「図書館最先端 若手図書館職員が語る図書館の現在×未来」

期日：平成29年10月16日（月）

講師：手塚美希氏（紫波町図書館）

高橋真太郎氏（鳥取県立図書館）

鈴木翔子氏（津山市立図書館）

午前は講師の方々が所属する図書館での取り組みを紹介していただきました。紫波町では、図書館も含めた公民連携による町づくりをされているそうです。町の問題や取り組んでいる情報を取り入れ、そのことについて調査をし、一緒に解決できるような本を揃えて展示をされている



と言われていました。高橋氏は、レファレンスの具体例を挙げられ、どのように対応したかを紹介されていました。図書館を人々の夢を叶え、好奇心を満たす場にしていくことを目標にされているとのことでした。津山市立図書館は、地元の高校や大学・高専の図書室や病院との連携によって、利用者が使いやすい環境を整備されているとのこと。相互協力関係を築くことで、図書館のイベントに大学・高専の先生や看護師を招き、講演をしていただけるようになったそうです。

3氏とも受け身ではなく、外へ出ていき様々なイベントに参加し、図書館では「いろんなことができます」と自ら発信していくことが図書館にまだ来たことのない方達を呼び込むことに繋がるとおっしゃっていました。

午後はトークセッションの後に参加者も含め

た交流会が開催されました。トークセッションでは、午前には発表された3氏の方々が「積極的に外に行って、交流をする秘訣は?」「連携を取るための方法は?」などの質問に対し、「必要なことができる」と知ってもらおう、「普段から繋がりを作っておく」など、それぞれの経験から回答をされていました。交流会では、普段出会うことの少ない県内外の司書の方達ともお話をすることができ、とても貴重で有意義な時間を過ごすことができました。

手塚氏の「日本中の司書がネットワークで繋がっているのが夢。人的なネットワークはAIにはできないことだと思っている」という言葉がとても印象深く、図書館をよりよくしていくためには、それぞれの図書館の努力はもちろんのこと、全国の司書の方々との助け合いも必要だと感じました。

(美咲町立旭図書館 大倉加奈江・山本佳苗)

## 第92回教養講座報告

### 「情報リテラシーと図書館」

期日：平成30年2月1日(木)

講師：川崎 千加氏

今回の講座では大学における情報リテラシーの状況、そして図書館に求められているもの



のは何なのかといったことなどについてお話をさせていただきました。

まず、大学生のリテラシーの状況については、スマホは持っているがPCの操作には不慣れな学生が増加していることや、検索キーワードの設定が困難であることなどを紹介されました。また、現在の大学情報リテラシー教育を取り巻く環境についても述べられ、大学が実施する情報リテラシー教育には図書館が組み込まれていないことなどについても説明していただきました。そして公共図書館での情報リテラシー教育

とその可能性について、図書館は住民に対し情報機器に触れることができる機会を提供し、情報リテラシーの習得を支援することができる、つまり図書館は人々がより良く生きるための支援の場となるということを紹介していただきました。

自分にとって必要な情報を如何に正確に、効率良く入手するかという技術は身につける必要があると思いますし、図書館がその技術の習得を支援することも大事な図書館の役目だと感じました。

今回の講座で、情報リテラシーと図書館の重要性を学ぶことができたと思います。

(岡山県立図書館 藪下浩武)

## 事務局から

### ■企画委員会

平成29年11月30日(木)に第2回企画委員会を開催しました。主に今年度3月発行の会報内容や、来年度の研修企画について相談をしました。



今回をもちまして、委員の皆様は2年の任期が終了となります。9名の皆様、大変お世話になりました。

### ■第92回県図協教養講座、県図協セミナー(第3回)、県図協セミナー(第4回)の資料の提供

先に開催されました、第92回県図協教養講座、県図協セミナー第3回、県図協セミナー第4回の資料を御提供しています。研修へ御参加いただけなかった方への御提供も可能ですので、必要な方は事務局まで御連絡ください。

平成30年3月1日発行

〒700-0823 岡山市北区丸の内2-6-30

岡山県立図書館 図書館振興課内

岡山県図書館協会 会長 狩屋 幸司

TEL: 086-224-1286